

ふくまきねんえきしゅ  
**腹膜偽粘液腫  
(PMP)について**

## 海外では？

海外では、各国に1箇所ほどの専門のセンターがあり治療にあたっています。オーストラリアにはこの疾患に特化した国立腹膜切除センターがあり、イギリスではベーシングトーク癌センターに偽粘液腫センターがあり、年間3000万円の補助を国から受けています。アメリカでは、ワシントン癌センター、イタリアでは、ミラノ癌センター、スペインではMDアンダーソン癌センター・スペインがあり、その他ではプラハ、パリ、ローマ、ポルトガルなどにこの疾患を専門に治療する医師がいます。

## 日本では？

日本では、この疾患を専門的に治療にあたっている医師は一人だけでとても恵まれた状況にあるとは言いがたく、病院経営の面からみても今の保険制度では赤字覚悟で行わなければならない状態です。

## 腹膜偽粘液腫患者支援の会は

2006年2月、この疾患を特定疾患に認定してもらう事を目的に発足しました。HPを通じて署名を集め厚労省に要望書を提出しています。この事は多くの方にこの病気の認識と理解を求めていく事でもあります。また、HP上で情報交換や、患者同士の話し合いの場にもなっています。

私達支援の会は、海外の状況も視野に入れ早期に専門の治療機関を設け治療法の確立を目指し、研究していただく事を一番に望み、強く要望し続けています。

(2014年2月現在 会員数 164名)

### 活動経緯

2006年 7月	請願署名	10,000名提出
2006年11月	請願署名	10,000名提出
2007年 7月	請願署名	31,000名提出
2008年 2月	請願署名	157,000名提出
2009年 2月	請願署名	107,000名提出
2010年 3月	請願署名	162,100名提出
2011年 2月	請願署名	13,167名提出
2012年 2月	請願署名	58,032名提出
2013年 6月	請願署名	72,658名提出

2013年 6月現在 署名合計 620,957名

監修

腹膜播種治療支援機構

理事長 米村 豊



2014年2月

腹膜偽粘液腫患者支援の会

(PMP: pseudomyxoma peritonei)

URL <http://www.pmp-jp.com/>

ふくまきぎねんえきしゅ

## 腹膜偽粘液腫(PMP)とは、こんな病気です

### どんな病気？

腹膜偽粘液腫は、100万人に一人発症するといわれている希少な病気で、日本では年間120人程度の発症があると推定されています。進行はゆっくりであるため、5年間で累積される患者数は数百人になると思われますが正確なところは統計がないのでわかりません。

一般に発病は40～50代の女性に多いといわれていますが、最近では若い女性や働き盛りの男性が発症するケースもたくさん報告されています。

### どんな症状？

原因はまだわかっていませんが、発病部位は虫垂、卵巣のことが多く、腹部にゼリー状の水が溜まっていき、進行はゆっくりですが止めることはできず、まるで妊婦のようなお腹になってしまいます。

症状が軽度のうちは、数週間おきに腹水を抜くだけといったケースもあり、ある程度の仕事も可能ですが、塊ができ大きくなった場合、臓器を圧迫し栄養失調や腸閉塞など、深刻な状態に至ることもあります。

そうすると、仕事どころか食事を摂ることすら困難になります。

症状の出方は個人差が大きく、年齢などで進行の早さを計ることはできません。また、病気に対する認知度も低く症状の説明も困難なため、仕事をすすめる上での周囲の協力を得る事も難しい状況です。

### どんな治療法？

専門家の現在の見解では、この病気は抗がん剤がほとんど効かない腫瘍の1種であり組織学的に良性、悪性、中間、のものがあるということです。

外科の手術が一般的ですが、この病気を手がけた事のある外科医でも一生で1～2例しか出会う事がなかったり、手に負えないと言われ患者自身が手探りで病院を探したり、他の目的で開発された抗がん剤を試している状態です。

